

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

循環系調整剤

カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」

カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」

カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」

Kallidinogenase

剤形	錠 25 単位, 錠 50 単位：腸溶性フィルムコーティング錠 カプセル 25 単位：硬カプセル剤
製剤の規制区分	なし
規格・含量	錠 25 単位：1 錠中カリジノゲナーゼ 25 単位含有 錠 50 単位：1 錠中カリジノゲナーゼ 50 単位含有 カプセル 25 単位：1 カプセル中カリジノゲナーゼ 25 単位含有
一般名	和名：カリジノゲナーゼ 洋名：Kallidinogenase
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2012年 8月 3日 薬価基準収載：2012年 12月 14日 発売年月日：2012年 12月 14日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：日医工株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ http://www.nichiiko.co.jp/

本IFは2012年12月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤字・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

【IFの作成】

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VI. 薬効薬理に関する項目	12
1. 開発の経緯.....	1	1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群	12
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 薬理作用	12
II. 名称に関する項目	2	VII. 薬物動態に関する項目	13
1. 販売名	2	1. 血中濃度の推移・測定法.....	13
2. 一般名	2	2. 薬物速度論的パラメータ	13
3. 構造式又は示性式	2	3. 吸収	13
4. 分子式及び分子量	2	4. 分布	13
5. 化学名（命名法）	2	5. 代謝	14
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	6. 排泄	14
7. CAS登録番号	2	7. トランスポーターに関する情報.....	14
III. 有効成分に関する項目	3	8. 透析等による除去率.....	14
1. 物理化学的性質	3	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	15
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	1. 警告内容とその理由	15
3. 有効成分の確認試験法.....	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ...	15
4. 有効成分の定量法	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	15
IV. 製剤に関する項目	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	15
1. 剤形.....	4	5. 慎重投与内容とその理由.....	15
2. 製剤の組成.....	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	15
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意.....	5	7. 相互作用	15
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	8. 副作用.....	15
5. 調製法及び溶解後の安定性	7	9. 高齢者への投与	16
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	10	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与.....	16
7. 溶出性.....	10	11. 小児等への投与	16
8. 生物学的試験法	10	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	16
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	10	13. 過量投与	16
10. 製剤中の有効成分の定量法	10	14. 適用上の注意.....	16
11. 力価.....	10	15. その他の注意.....	16
12. 混入する可能性のある夾雑物.....	10	16. その他.....	16
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報.....	10	IX. 非臨床試験に関する項目	17
14. その他.....	10	1. 薬理試験	17
V. 治療に関する項目	11	2. 毒性試験	17
1. 効能又は効果	11	X. 管理的事項に関する項目	18
2. 用法及び用量	11	1. 規制区分.....	18
3. 臨床成績	11		

2. 有効期間又は使用期限.....	18
3. 貯法・保存条件	18
4. 薬剤取扱い上の注意点.....	18
5. 承認条件等.....	18
6. 包装.....	18
7. 容器の材質.....	18
8. 同一成分・同効薬.....	18
9. 国際誕生年月日	18
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	19
11. 薬価基準収載年月日	19
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等 の年月日及びその内容.....	19
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその 内容.....	19
14. 再審査期間.....	19
15. 投与期間制限医薬品に関する情報	19
16. 各種コード.....	20
17. 保険給付上の注意.....	20
X I. 文献	21
1. 引用文献	21
2. その他の参考文献.....	21
X II. 参考資料	21
1. 主な外国での発売状況.....	21
2. 海外における臨床支援情報	21
X III. 備考	21
その他の関連資料.....	21
付表 1—1	22
付表 1—2	23
付表 1—3	24

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤はカリジノゲナーゼを有効成分とする循環系調整剤である。

カリジノゲナーゼ製剤の「カリクロモン」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験等を実施し、1970年10月14日に承認を取得、更に「カリクロモンカプセル」は1972年2月18日に承認を取得、上市した。

1988年6月15日に再評価結果が公示され、効能・効果、用法・用量の整理・統一及び規格表示が「生物学的単位」から「国際単位」に変更された。それに伴い1988年7月11日に「カリクロモン錠」及び「カリクロモンSカプセル」の販売名で承認を取得した。

又、1997年12月26日に第十三改正日本薬局方第一追補にカリジノゲナーゼが収載され、規格表示が「国際単位」から「単位」に変更された。

更に、規格揃えとして1992年2月29日に「カリクロモン錠 50」の承認を取得し、1992年7月10日から販売の運びとなった。

その後、1999年9月14日の再評価結果（薬効再評価）から、「カリクロモン錠」、「カリクロモン錠 50」及び「カリクロモンSカプセル」について、「脳循環障害の随伴症状」の効能効果を削除した。

医療事故防止のため、以下の販売名変更を行った。

承認年月日	販売名	旧販売名
2001年8月24日	カリクロモン錠 25	カリクロモン錠
2007年2月28日	カリクロモンカプセル 25 単位	カリクロモンSカプセル
2012年8月 3日	カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」 カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」 カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	カリクロモン錠 25 カリクロモン錠 50 カリクロモンカプセル 25 単位

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤はカリジノゲナーゼを有効成分とする循環系調整剤である。
- (2) PTP シートはピッチコントロールを行い、1錠又は1カプセルごとに成分名、含量を表示した。
- (3) 副作用（頻度不明）として、過敏症、循環器、消化器、肝臓及びその他が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」

カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」

カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」

(2) 洋名

Kallidinogenase

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

カリジノゲナーゼ (JAN)

(2) 洋名 (命名法)

Kallidinogenase (JAN)

(3) ステム

酵素類：-ase

3. 構造式又は示性式

不明

4. 分子式及び分子量

不明

5. 化学名 (命名法)

不明

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

なし

7. CAS登録番号

9001-01-8

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～淡褐色の粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがある。

(2) 溶解性

水に溶けやすく、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点），沸点，凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

本品の水溶液（1→300）のpHは5.5～7.5である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 紫外可視吸光度測定法

カリジノゲナーゼをリン酸塩緩衝液に溶かしトリプシンインヒビター試液を加え、アプロチニン試液を加えた溶液及びリン酸塩緩衝液を加えた溶液を調製する。又、カリジノゲナーゼを含まずに同様に調製した溶液も準備する。次にあらかじめ30℃で加温したカリジノゲナーゼ測定用基質試液に各試料溶液を加え、それぞれの吸光度を測定する。与えられた計算式により、アプロチニン試液を加えた試料がカリジノゲナーゼ活性を80%以上阻害していることを確認する。

(2) 紫外可視吸光度測定法

あらかじめ30℃で加温したカリジノゲナーゼ測定用基質試液に、定量法で得た試料溶液を加え、吸光度の経時的変化を測定する。吸光度の変化率が一定であるとき、1分間当たりの吸光度の変化量を算出する。与えられた計算式により、 R の値を求めるとき、0.12～0.16である。

4. 有効成分の定量法


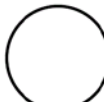


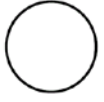

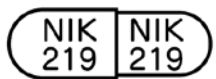
紫外可視吸光度測定法

カリジノゲナーゼのリン酸塩緩衝液を調製し、トリプシンインヒビター試液を加え試料溶液とする。あらかじめ30℃で加温したカリジノゲナーゼ測定用基質試液に試料溶液を加え、吸光度の経時的変化を測定する。別にカリジノゲナーゼ標準品を同様に調製し標準溶液とし、同様に操作し、吸光度の経時的変化を測定する。与えられた計算式より1mg当たりのカリジノゲナーゼ単位数を求める。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	色調 剤形	形 状			識別コード
		質量(mg)	直径(mm)	厚さ(mm)	
カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」	白色の腸溶性フィルムコーティング錠	 148	 7.2	 3.5	本体：K 包装：㊟218
カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」	だいたい色の腸溶性フィルムコーティング錠	 115	 6.2	 3.5	本体：n201 包装：㊟201
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	だいたい色(キャップ)/白色(ボディ)の硬カプセル	 4 号カプセル			本体：NIK219 包装：㊟219

(2) 製剤の物性

(「IV-4.製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

(3) 識別コード

(「IV-1.(1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

販売名	有効成分の含量
カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」	1 錠中カリジノゲナーゼ 25 単位を含有
カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」	1 錠中カリジノゲナーゼ 50 単位を含有
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	1 カプセル中カリジノゲナーゼ 25 単位を含有

(2) 添加物

カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」, カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」

添加目的	添加物
賦形剤	セルロース, 乳糖
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
滑沢剤	ステアリン酸マグネシウム
コーティング剤	ヒプロメロース酢酸エステルコハク酸エステル, クエン酸トリエチル, タルク, 酸化チタン
着色剤	(50 単位のみ) 黄色 5 号アルミニウムレーキ

カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」

添加目的	添加物
賦形剤	乳糖，トウモロコシデンプン，白糖，バレイショデンプン
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
コーティング剤	ヒプロメロース酢酸エステルコハク酸エステル，クエン酸トリエチル，タルク
滑沢剤	タルク
カプセル本体	ゼラチン，赤色 3 号，黄色 5 号，酸化チタン，タルク，ラウリル硫酸ナトリウム

(3) その他

該当記載事項なし

3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

(1) 長期保存試験

長期保存試験 (25°C, 60%RH) の結果より，カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」，カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」及びカリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」は通常の市場流通下において 4 年間安定であることが確認された。

◇カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」 長期保存試験 [包装形態 (PTP 包装)]

測定項目<規格>	ロット番号	保存期間				
		開始時	12 カ月	24 カ月	36 カ月	48 カ月
性状 <白色の腸溶性フィルムコーティング錠>	EP12A1 EP12B1 JP04A1	適合	同左	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	EP12A1 EP12B1 JP04A1	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 I 液, 120 分安定>	EP12A1 EP12B1 JP04A1	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 II 液, 60 分以内崩壊>	EP12A1 EP12B1 JP04A1	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) * <90.0~130.0%>	EP12A1 EP12B1 JP04A1	103.6 105.3 111.3	100.0 99.6 104.4	103.0 103.3 103.1	104.8 103.2 101.3	108.8 111.3 102.5

※：表示量に対する含有率(%)

◇カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」 長期保存試験 [包装形態 (PTP 包装)]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間				
		開始時	12 ヶ月	24 ヶ月	36 ヶ月	48 ヶ月
性状 <だいたい色の腸溶性フィルムコーティング錠>	CIO18A CIO19A CIO25B	適合	同左	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CIO18A CIO19A CIO25B	適合	同左	同左	同左	同左
キニン遊離活性試験 (紫外可視吸光度測定法)	CIO18A CIO19A CIO25B	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 I 液, 120 分安定>	CIO18A CIO19A CIO25B	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 II 液, 60 分以内崩壊>	CIO18A CIO19A CIO25B	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) * <90.0~130.0%>	CIO18A CIO19A CIO25B	102.1 101.8 109.2	104.4 101.0 105.6	101.8 99.9 106.1	103.4 106.9 99.0	111.7 108.1 112.6

※：表示量に対する含有率(%)

◇カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」 長期保存試験 [包装形態 (PTP 包装)]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間				
		開始時	12 ヶ月	24 ヶ月	36 ヶ月	48 ヶ月
性状 <だいたい色(キャップ)/白色(ボディ)の硬カプセル剤>	CIO030 CAD230 CBD190	適合	同左	同左	同左	同左
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CIO030 CAD230 CBD190	適合	同左	同左	同左	同左
キニン遊離活性試験 (紫外可視吸光度測定法)	CIO030 CAD230 CBD190	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <水, 20 分以内崩壊>	CIO030 CAD230 CBD190	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 I 液, 60 分安定>	CIO030 CAD230 CBD190	適合	同左	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 II 液, 30 分以内崩壊>	CIO030 CAD230 CBD190	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) * <90.0~130.0%>	CIO030 CAD230 CBD190	105.2 112.9 109.5	101.3 108.2 111.9	102.6 111.7 110.7	105.9 101.6 106.9	99.4 104.2 106.8

※：表示量に対する含有率(%)

(2) 無包装の安定性試験

◇カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状<白色の腸溶性フィルムコーティング錠>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 I 液, 120 分安定>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 II 液, 60 分以内>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※1 <90.0~130.0%>	CU05B1	119.7	120.2	110.8 (規格内) ※2	109.0 (規格内) ※2
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	CU05B1	144	121	116	116

※1: 表示量に対する含有率 (%) ※2: 3%以上の含量低下を認めたが規格の範囲内であった。 変化あり: 太字

◇カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状<白色の腸溶性フィルムコーティング錠>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 I 液, 120 分安定>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 II 液, 60 分以内>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※1 <90.0~130.0%>	CU05B1	119.7	115.6 (規格内) ※2	112.8 (規格内) ※2	83.9 (規格外)
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	CU05B1	144	82 (規格内) ※3	80 (規格内) ※3	88 (規格内) ※3

※1: 表示量に対する含有率 (%) ※2: 3%以上の含量低下を認めたが規格の範囲内であった。

※3: 30%以上の硬度変化を認めたが参考値(19.6N)以上であった。 変化あり: 太字

◇カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状<白色の腸溶性フィルムコーティング錠>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 I 液, 120 分安定>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 <第 II 液, 60 分以内>	CU05B1	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※1 <90.0~130.0%>	CU05B1	119.7	110.5 (規格内) ※2	108.9 (規格内) ※2	109.4 (規格内) ※2
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	CU05B1	144	121	128	123

※1: 表示量に対する含有率 (%) ※2: 3%以上の含量低下を認めたが規格の範囲内であった。 変化あり: 太字

◇カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状<だいたい色の腸溶性フィルムコーティング錠>	KD19B1	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) * <90.0~130.0%>	KD19B1	95.1	103.4	94.9	116.4	97.1
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	KD19B1	120	134	135	128	129

※：表示量に対する含有率 (%)

◇カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間				
		開始時	2 週	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状<だいたい色の腸溶性フィルムコーティング錠>	KD19B1	適合	同左	同左	同左	同左
含量 (%) * <90.0~130.0%>	KD19B1	95.1	93.4	111.7	69.2 (規格外)	68.3 (規格外)
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	KD19B1	120	110	104	118	95

※：表示量に対する含有率 (%) 変化あり：太字

◇カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状<だいたい色の腸溶性フィルムコーティング錠>	KD19B1	適合	同左 (若干薄くなる)	同左 (若干薄くなる)	同左 (若干薄くなる)
含量 (%) * <90.0~130.0%>	KD19B1	95.1	96.3	101.3	102.4
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	KD19B1	120	125	131	127

※：表示量に対する含有率 (%)

◇カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状<だいたい色(キャップ)/白色(ホテイ)の硬カプセル剤※1>	EU0901	適合	同左	同左	同左
崩壊性 <カプセル: 水, 20 分以内> <内容物: 第 1 液, 60 分安定> <内容物: 第 2 液, 30 分以内>	EU0901	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※2 <90.0~130.0%>	EU0901	122.5	117.6 (規格内) ※3	116.3 (規格内) ※3	116.3 (規格内) ※3

※1: 内容物は白色~微褐色の腸溶性顆粒状 ※2: 表示量に対する含有率 (%) ※3: 3%以上の含量低下を認めた
が, 規格の範囲内であった。 変化あり: 太字

◇カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目<規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状<だいたい色(キャップ)/白色(ホテイ)の硬カプセル剤※1>	EU0901	適合	同左	同左	同左
崩壊性 <カプセル: 水, 20 分以内> <内容物: 第 1 液, 60 分安定> <内容物: 第 2 液, 30 分以内>	EU0901	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※2 <90.0~130.0%>	EU0901	122.5	113.3 (規格内) ※3	108.7 (規格内) ※3	94.4 (規格内) ※3

※1: 内容物は白色~微褐色の腸溶性顆粒状 ※2: 表示量に対する含有率 (%) ※3: 3%以上の含量低下を認めた
が, 規格の範囲内であった。 変化あり: 太字

◇カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」 無包装 室温・曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状<だいたい色(キャップ)/白色(ホテイ)の硬カプセル剤※1>	EU0901	適合	同左	同左	同左
崩壊性 <カプセル: 水, 20 分以内> <内容物: 第 1 液, 60 分安定> <内容物: 第 2 液, 30 分以内>	EU0901	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※2 <90.0~130.0%>	EU0901	122.5	119.4 (規格内) ※3	115.8 (規格内) ※3	115.1 (規格内) ※3

※1: 内容物は白色~微褐色の腸溶性顆粒状 ※2: 表示量に対する含有率 (%) ※3: 3%以上の含量低下を認めた
が, 規格の範囲内であった。 変化あり: 太字

本試験は, 「(社)日本病院薬剤師会:錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申),
平成 11 年 8 月 20 日」を参考に評価した。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当しない

7. 溶出性

該当資料なし

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

本品の腸溶性フィルム層を取り除いた後、粉末としリン酸塩緩衝液で溶解し、トリプシンインヒビター試液を加え、アプロチニン試液を加えた溶液及びリン酸塩緩衝液を加えた溶液を調製する。又、カリジノゲナーゼを含まずに同様に調製した溶液も準備する。次にあらかじめ30℃で加温したカリジノゲナーゼ測定用基質試液に各試料溶液を加え、それぞれの吸光度を測定する。与えられた計算式により、アプロチニン試液を加えた試料がカリジノゲナーゼ活性を80%以上阻害していることを確認する。

10. 製剤中の有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法

本品の腸溶性フィルム層を取り除いた後、粉末としリン酸塩緩衝液で溶解し、トリプシンインヒビター試液を加え試料溶液とする。あらかじめ 30℃で加温したカリジノゲナーゼ測定用基質試液に試料溶液を加え、吸光度の経時的変化を測定する。別にカリジノゲナーゼ標準品を同様に調製し標準溶液とし、同様に操作し、吸光度の経時的変化を測定する。与えられた計算式より本品 1錠中のカリジノゲナーゼ単位数を求める。

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記疾患における末梢循環障害の改善

高血圧症，メニエール症候群，閉塞性血栓血管炎（ビュルガー病）

下記症状の改善

更年期障害，網脈絡膜の循環障害

2. 用法及び用量

カリジノゲナーゼとして，通常成人1日30～150単位を1日3回に分割経口投与する。

なお，年齢・症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

カリジン, ブラジキニン

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序²⁾

膵由来のタンパク質分解酵素で、カリクレインとも呼ばれる。血漿中の α_2 -グロブリン分画に属するキニノーゲンを酵素的に分解することでブラジキニンを遊離させる。ブラジキニンは、血管内皮細胞の β_2 受容体を刺激して一酸化窒素 (NO) やプロスタグランジン類の産生を亢進させることで強力な血管拡張作用を現す。また、微小循環速度の亢進作用を介して血流量を増加させ、組織の循環障害を改善する。各種血管床に作用するが、特に脳循環に対する選択性が高い。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

(「VIII-7. 相互作用」の項参照)

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

脳出血直後等の新鮮出血時の患者 [血管拡張作用により出血を助長するおそれがある。]

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当記載事項なし

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当記載事項なし

7. 相互作用

（1）併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

（2）併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アンジオテンシン変換酵素阻害剤	本剤との併用により過度の 血圧低下が引き起こされる 可能性がある。	本剤のキニン産生作用とアンジオ テンシン変換酵素阻害剤のキニン 分解抑制作用により、血中キニン 濃度が増大し、血管平滑筋弛緩が 増強される可能性がある。

8. 副作用

（1）副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

（2）重大な副作用と初期症状

該当記載事項なし

（3）その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^(注)	発疹，そう痒感，蕁麻疹
循環器	心悸亢進
消化器	胃部不快感，嘔気，嘔吐，食欲不振，上腹部痛，下痢，便秘
肝臓	AST(GOT)上昇，ALT(GPT)上昇，肝機能障害
その他	ほてり，頭痛，頭重，眠気，けん怠感

注：症状があらわれた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

その他の副作用：過敏症（発疹，そう痒感，蕁麻疹）があらわれた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので，減量するなど注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

該当記載事項なし

11. 小児等への投与

該当記載事項なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。
（PTPシートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

15. その他の注意

該当記載事項なし

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」 カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」 カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	なし
有効成分	カリジノゲナーゼ	なし

2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること。（4年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

気密容器で室温保存，遮光保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

「貯法・保存条件」の項参照

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目）の項参照

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有り

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目）の項参照

(3) 調剤時の留意点について

該当記載事項なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

	PTP	バラ
カリジノゲナーゼ錠 25 単位 「日医工」	100 錠（10 錠× 10） 1000 錠（10 錠×100）	1000 錠
カリジノゲナーゼ錠 50 単位 「日医工」	100 錠（10 錠× 10） 1000 錠（10 錠×100）	1000 錠
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	100 カプセル（10 カプセル× 10） 1000 カプセル（10 カプセル×100）	—

7. 容器の材質

	PTP	バラ
カリジノゲナーゼ錠 25 単位 「日医工」	ポリプロピレン，アルミニウム箔	ガラス瓶 ブリキ製蓋
カリジノゲナーゼ錠 50 単位 「日医工」	ポリ塩化ビニル，アルミニウム箔	ガラス瓶 ブリキ製蓋
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	ポリプロピレン，アルミニウム箔	—

8. 同一成分・同効薬

同一成分：サークレチン S 錠 25，サークレチン S 錠 50

カルナクリン錠 25，カルナクリン錠 50，カルナクリンカプセル 25

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

	承認年月日	承認番号
カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」	2012 年 8 月 3 日	22400AMX00813000
カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」	2012 年 8 月 3 日	22400AMX00818000
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	2012 年 8 月 3 日	22400AMX00812000

旧販売名	承認年月日	承認番号
カリクロモン錠 25	2001 年 8 月 24 日	21300AMZ00662000
カリクロモン錠 50	1992 年 2 月 29 日	(4AM)421
カリクロモンカプセル 25 単位	2007 年 2 月 28 日	21900AMX00122000

旧販売名	承認年月日	承認番号
カリクロモン錠	1988 年 7 月 11 日	(63AM)742
カリクロモン S カプセル	1988 年 7 月 11 日	(63AM)741

11. 薬価基準収載年月日

	薬価基準収載年月日
カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」	2012 年 12 月 14 日
カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」	2012 年 12 月 14 日
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	2012 年 12 月 14 日

旧販売名	薬価基準収載年月日
カリクロモン錠 25	2001 年 9 月 7 日
カリクロモン錠 50	1992 年 7 月 10 日
カリクロモンカプセル 25 単位	2007 年 6 月 15 日

旧販売名	薬価基準収載年月日
カリクロモン錠	1988 年 7 月 22 日
カリクロモン S カプセル	1988 年 7 月 22 日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

16. 各種コード

	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
カリジノゲナーゼ錠 25 単位「日医工」	2491001F5170	620542301	105423101
カリジノゲナーゼ錠 50 単位「日医工」	2491001F6010 (統一収載コード)	620543801	105438501
カリジノゲナーゼカプセル 25 単位「日医工」	2491001M3079	620545602	105456902

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日医工株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 第十七改正日本薬局方解説書 C-1282, 廣川書店, 東京 (2016)

2. その他の参考文献

なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

X III . 備 考

その他の関連資料

なし

付表 1—1

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 2

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 3

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される